

目 次

| | |
|-------------|----|
| 歯科臨床概論 | 1 |
| 歯科衛生士概論 | 2 |
| 口腔解剖学 | 3 |
| 生物学 | 4 |
| 微生物学・口腔微生物学 | 5 |
| 英語 | 6 |
| 解剖・組織発生学Ⅰ | 7 |
| 解剖・組織発生学Ⅱ | 8 |
| コミュニケーション論 | 9 |
| 生理学・口腔生理学 | 10 |
| 化学 | 11 |
| 歯科器械材料学 | 12 |
| 衛生・公衆衛生学 | 13 |
| 口腔衛生学 | 14 |
| 文学論（国語表現） | 15 |
| 生化学・口腔生化学 | 16 |
| 情報処理 | 17 |
| 心理学（臨床心理学） | 18 |
| 栄養学 | 19 |
| 歯科放射線学 | 20 |
| 歯周治療学 | 21 |
| 薬理学・歯科薬理学 | 22 |
| 病理学・口腔病理学 | 23 |
| 保存修復学 | 24 |
| 歯内治療学 | 25 |
| 隣接医学（精神医学含） | 26 |
| 社会福祉論 | 27 |
| 栄養指導論 | 28 |
| 歯科予防処置論Ⅰ | 29 |
| 歯科診療補助論Ⅰ | 30 |
| 歯科保健指導論Ⅰ | 31 |

歯科臨床概論

1. 目的

今日の急速な高齢社会の到来とともに国民の歯科医療へのニーズはますます多様化し、医療の質的向上も強く求められている。その中で歯科衛生士の持つ役割への期待、要望は多岐にわたり、重要度は年々増加する一方である。それに伴って歯科衛生士を志す学生の学ぶべき内容は増加し、より高度なものへと変化している。歯科臨床概論の目的は、歯科臨床医学を学ぶに当たり、歯科衛生士の持つ役割の意義を身に付け、そのもっとも基礎的な部分を理解するとともに歯科臨床システム全体を概観し、より専門的な教科を学習する下地をつくることにある。

2. 授業計画：講義（4回）

（1）歯科医療のしくみ

医療の基礎　　歯科医療の特徴　　歯科臨床従事者の役割
歯科診療所と設備内容　　歯科医療に関する法的事項

（2）診察と患者への対応

診察のながれ　　診療録などの医療文書　　患者の心理と対応
老人・全身疾患を持った患者への対応　　小児・妊婦への対応

（3）歯科疾患の概要とその治療

歯科疾患の種類　　歯科保存治療　　歯周治療
歯科補綴治療　　口腔外科治療　　小児歯科治療・矯正歯科治療

（4）さまざまな検査・診療器具の準備

エックス線検査　　血液検査　　臨床検査　　消毒と滅菌

3. 教科書：「歯科衛生士のための歯科臨床概論」　　医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験

5. 授業時間数：15時間

6. 教員実務経験概要：歯科医師

7. 実務経験のある教員による授業概要

歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯科衛生士の持つ役割の意義を身に付け、基礎的な部分を理解するとともに歯科臨床システム全体を概観し、より専門的な教科を学習する下地をつくることができるよう指導している。

歯科衛生士概論

1. 目的

保健医療人としての基本的態度について理解し、人びとのニーズにあった健康づくりを支援する者となるために、論理的思考法の基礎を修得する。

2. 授業計画

1. 歯科衛生学とは
歯科衛生士の歴史
2. 歯科衛生活動のための理論
歯科衛生過程
3. 歯科衛生士と歯科衛生業務
歯科衛生士と医療倫理
4. 歯科衛生士の活動と組織
海外における歯科衛生士

3. 教科書：歯科衛生学総論 医歯薬出版

4. 評価方法：単位試験

提出課題及び出席率、授業態度により評価する

5. 授業時間：15時間

6. 教員実務経験：歯科衛生士

7. 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院および病院において歯科衛生士業務に従事した実務経験を活かし、保健医療人としての基本的態度について理解し、ニーズにあった健康づくりを支援する者となるために論理的思考法の基礎が習得できるよう指導している。

8. 担当教員：専任教員

口腔解剖学

1. 目的

歯科医学の基本知識である歯の種類、歯の形態、方向用語などの知識を習得することを目的とします。歯は立体であるため授業では理解しがたい部分があります。それを実習でカービングという石膏から削り出すことにより多面的に見ることで理解を深めます。さらに歯を一つのものから歯列や咬み合わせというグループとしての働きを学習していきます。

2. 授業計画：講義および実習

1. 総論
2. 総論および切歯について
3. 切歯について
4. 犬歯について
5. 小白歯について
6. 大白歯について
7. 大白歯について
8. 咬合、歯列について
9. 乳歯について

3. 教科書：「基礎から学ぶ歯の解剖」編・前田健康 医歯薬出版

4. 評価の方法：筆記試験に実習テストを加味して総合的に評価する

5. 授業時間数：30時間

6. 教員実務経験概：歯科医師

7. 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯の種類・歯の形態・方向用語などの知識が習得できるよう指導している。

生 物 学

1. 目的

医療を実践するためにはヒトのさまざまな構造、機能、特性などを理解することが必要である。生物学はこうした理解への基礎知識である。生命の起源・特性を考えながら、生命の基本形である細胞の構造と機能から、個体を構成する組織・器官の構造と機能、生命の発生と遺伝子の構造と働き、さらに器官系の成り立ちと相互の関係などを中心に講義する。

2. 授業計画：講義

1. 生命とは何か：生命の誕生と進化
2. 生命を構成する物質とその特徴
3. 細胞構造と機能（1）：細胞の構造
4. 細胞構造と機能（2）：細胞の働き
5. 細胞の増殖：体細胞分裂と減数分裂
6. 遺伝と遺伝子（1）：メンデル遺伝と疾患
7. 遺伝と遺伝子（2）：遺伝情報発現と調節
8. 動物の胚発生と形態形成
9. ヒトの組織と器官：成り立ちと働き
10. ヒトの器官：器官相互の関係と恒常性
11. 生体防御のシステム
12. ヒトの誕生と進化

3. 教科書：「生物学」（医歯薬出版）

生物図録（数研出版）

4. 評価の方法：単位試験80%、小テスト・課題ノートの提出などの平常点20%、により総合的に評価する。

微生物学・口腔微生物学

1. 目的

我々の身体には数多くの微生物が存在し、特に常在細菌と共生することで健康を維持している。一方、ウイルスをはじめとして微生物には感染症を引き起こすものも少なくない。微生物学では、感染症の原因となる微生物の性状、感染経路、感染症に対する化学療法薬の作用機構等を学ぶ。また、生体防御機構である免疫を学び、我々の身体がどのように病原微生物の感染を排除し、免疫を成立させるのか理解を深めていく。口腔微生物学では、口腔の2大疾患として知られる齲蝕と歯周病について微生物学の観点から学ぶ。さらに、歯科診療に不可欠である滅菌・消毒についても学んでいく。微生物学・口腔微生物学を通して、以下に示す項目に特に重点を置きながら、歯科医療に従事する歯科衛生士として、必要不可欠な知識の習得を目指す。

1. 病原微生物の特徴
2. 感染症の種類とその予防・治療
3. 口腔の感染症
4. 宿主防御システム（免疫）

2. 授業計画：講義

以下の内容を教科書及びスライドを用いて進めていく。

- 1 微生物の特徴
- 2 感染症総論
- 3 細菌感染症
- 4 ウイルス、真菌、その他の感染症
- 5 口腔環境と微生物
- 6 口腔感染症（齲蝕と歯周病）
- 7 宿主防御機構と免疫
- 8 感染予防と治療方法

3. 教科書：「微生物学」（医歯薬出版株式会社）

4. 評価の方法：単位試験による評価

英 語

1. 目的

現代の歯科において、グローバル化に対応できる英語力を身につける。
単語力、会話力の向上を目指す。

2. 授業計画：講義

1. 自己紹介、簡単な挨拶
2. ブラッシング、コミュニケーションに役立つ英会話
3. 救急英語、税関、機上で役立つ英会話
4. 歯科専門用語（1） レストランなどで役立つ英会話
5. 診察及び治療計画、専門用語（2）
6. 診察内での専門用語 ホテルで役立つ英会話
7. 医院内の電話などの対応。交通機関での英会話（タクシー他）
8. まとめと復習。テスト対策

3. 教科書：歯科衛生士のための英会話（New interchange）

Side by Side (Longman)
Crown I (三省堂)

4. 評価の方法：出席状況、受講態度、小テスト、科目単位試験を総合的に判定して行います。

5. 授業時間数：15時間

6. 教員実務経験概要：指導員

7. 実務経験のある教員による授業の概要

在米大学卒業後、英語スクール、幼稚園等において英会話指導業務に従事した実務経験を
活かし、グローバル化に対応できる英語力が身に付けられるよう指導している。

解剖・組織発生学 I

1. 目的

人体解剖学は医学の全ての学問の最も基礎となる学問で、身体の構造を学ぶ学問である。臨床の場と同じように生身の身体を対象とする「肉眼解剖学」と、より細かなところの構造を顕微鏡を用いて観察する「顕微解剖学＝組織学」とがある。解剖・組織学においては、歯を除く顎顔面部を主体にヒトの「からだ」の構造について学ぶ。また、ヒトが成長・発育する過程である発生学も合わせて学修する。

2. 授業計画：講義

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 総論 | 9. 内臓、消化器、呼吸器 |
| 2. 組織学 | 10. 脈管・発生学 |
| 3. 骨学 1 | 11. 脈管・発生学 |
| 4. 骨学 2 | 12. 泌尿器系 生殖器系 |
| 5. 筋学 1 | 13. 生殖器系 内分泌 |
| 6. 筋学 2 | 14. 神経系（総論） 神経系（中枢神経） |
| 7. 骨実習 | 15. 神経系（末梢神経）、感覚器系 |
| 8. 内臓、消化器、呼吸器 | |

3. 教科書：学生のための 解剖・組織・発生学 医歯薬出版

4. 評価の方法：試験結果、出席状況、実習スケッチ、口頭試問などから総合的に判定する。

5. 授業時間数：60時間

6. 教員実務経験概要：歯科医師

7. 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院および歯科医院において歯科診療業務に従事した実務経験を活かし、全身的理解を前提として口腔および歯の構造と発生が理解できるよう指導している。

解剖・組織発生学 II

1. 目的

有機的で広範な全身的理解を前提として、口腔および歯の構造と発生を理解できるようにすることで解剖の知識をより深めることを目的とします。

2. 授業計画

1. 口腔・歯の発生
2. エナメル質 象牙質
3. セメント質、歯髄
4. 歯周組織

3. 教科書：「口腔解剖学、口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版

4. 評価方法：筆記試験に平常点を加味して総合的に判断します

5. 授業時間：15時間

6. 教員実務経験概要：歯科医師

7. 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、全身的理解を前提として口腔および歯の構造と発生が理解できるよう指導している。

コミュニケーション論

1. 目的

医療現場では、他職種との連携やクライアントの対応などにコミュニケーション力が求められるため、効果的なコミュニケーション方法に関する知識やスキルを学ぶことが重要である。講義では、ペアワークやディスカッションを通じて、自分自身や他者の理解を深めるとともに、情報収集の大切さについても学ぶことを目的とする。

2. 授業計画

- | | |
|--|------------------------------------|
| 1. 自分の考え方を知る ・出来事の説明要因 ・偏った認知スタイルの修正 | 5. 情報収集の大切さ② ・判断材料の収集 ・記憶の誤り |
| 2. 自分と他者を知る ・自分の考え方 ・他者の考え方 | 6. 自分の考え方を知る② ・考えるしくみ ・行動分析 |
| 3. 情報収集の大切さ① ・偏見 ・文脈的情報の理解 | 7. 情報収集の大切さ③ ・必要な情報とは |
| 4. 聞き方・話し方 ・適切な聞き方・話し方 ・アサーティブな主張 | 8. 他者の意見を聞く ・テスト ・議論 |

3. 教科書：毎回資料を配布

4. 評価の方法：試験40%、提出課題30%、授業での実習30%

5. 授業時間数：15時間

6. 教員実務経験概要：臨床心理士

7. 実務経験のある教員による授業の概要

児童相談所における心理判定、公立中学校スクールカウンセリング、大学・労働協会等の臨床心理士業務に従事した実務経験を活かし、自分自身や他者の理解を深め、医療現場で必要なコミュニケーションが習得できるよう指導している。

生理学・口腔生理学

1. 目的

生理学は、生命現象の機序を研究する自然科学である。すなわち、ヒトの身体は、さまざまな器官や組織から構成されているが、それらがどのようなはたらきをしているのか、また、そのはたらきの仕組みはどのようになっているのかを明らかにする学問である。身体の正常なはたらきを知るだけでなく、病気を理解するためにも生理学の知識は重要である。なぜなら、病気とは身体の正常なはたらきを保つことができなくなった状態であり、それゆえ、生理学を知らなければ病気の本体を知ることはできないのである。

2. 授業計画：

生理学

1. 生理学・口腔生理学の意義

細胞

体液

体液の循環

2. 呼吸

消化

尿の生成と排出

代謝

体温

3. 内分泌

生殖

4. 筋 神経 感覚

5. 実習 血圧測定

口腔生理学

1. 歯および歯周組織の生理

咬合と顎運動

咀嚼と吸引

嚥下および嘔吐

2. 唾液腺および唾液の生理

口腔感覚

発声

3. 咀嚼能率・口腔感覚

3. 教科書：歯科衛生士テキスト「生理学」(学建書院)

4. 評価の方法：出席態度 単位試験およびレポートによる

5. 授業時間：30時間

6. 教員実務経験概要：歯科医師

7. 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院および歯科医院において歯科診療業務に従事した実務経験を活かし、身体の構成・はたらきとその仕組みが理解できるよう指導している。

化 学

1. 目的（一般目標）

分子レベルで進歩する歯科医学の基本を理論的に把握し、歯科衛生士業務を遂行する基盤をつくるために、まず、物質の構造、性質および物質相互の反応、生体構成分子の構造を学ぶとともに、身近に起こっている現象を分子レベルで捉える習慣を身につける。

2. 授業計画：講義

1. 栄養と代謝（教本p1～3）
生命活動の概要
 - 1) 細胞の役割（教本p6～9）
2. 2) 生体における水（教本p9～12）
3. 3) 生体構成成分と栄養素（教本p12～21）
4. 栄養素の働き
 - 1) 糖質の栄養的意味（教本p140～145）
 - 2) タンパク質の栄養的意味（教本p145～152）
 - 3) 脂質の栄養的意味（教本p152～156）
 - 4) ビタミンの栄養的意味（教本p156～162）
 - 5) ミネラル・水・食物繊維の栄養的意味（教本p162～175）

3. 教科書：「人体の構造と機能2 栄養と代謝」 医歯薬出版

4. 評価の方法：科目試験（100点）で60点以上獲得したものを合格とする。

歯科器械材料学

1. 目的

歯科治療は、歯科材料なしではその目的を達せられません。

治療の成果を上げるためには、治療技術に加えて、材料の有している諸性質を最大限に発揮させる必要があります、そのため、材料の基礎的知識を修得し正確に材料を取り扱えるように、又、患者に対して解りやすく説明できるように歯科材料を理解することを目的とする。

2. 授業計画：A 講義 B 実習：個人トレイ製作から印象採得・模型作製まで

1. 歯科治療と歯科材料のかかわりについて
2. 歯科材料の素材と歯科材料の分類について
3. 歯科材料の所要性質と基本的性質について
4. 歯科衛生士が使用するシーラント材料、歯磨材、口腔清掃用具について
5. 成形歯冠修復材料について
6. 仮封材と暫間被覆冠について
7. 印象材料について
8. 模型材料について
9. 合着材と接着材について
10. 歯科補綴材料について
11. 切削・研削・研磨材料について
12. CAD、CAMシステムに用いる材料

3. 教科書：「歯科材料」（医歯薬出版）

イラストと写真でわかる歯科材料の基礎（永末書店）

4. 評価の方法：単位試験、レポート、実習

5. 授業時間数：30時間

6. 教員実務経験概要：歯科医師

7. 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯科材料の基礎的知識と正確な取り扱い方法が習得できるよう指導している。

衛生学・公衆衛生学

1. 目的

衛生学・公衆衛生学は、健康に基礎をおいた健康科学の一領域である。また、歯科保健を集団レベルで対応する分野でもある。将来、医療人となるためには、健康と疾病および疾病予防の概念を十分に理解する必要がある。衛生学・公衆衛生学の講義では、社会科学的な知識と技術を習得し、歯科保健医療の領域で公衆衛生の素養を身につけることを目的とする。

2. 授業計画：講義

講義は下記の事項について、教科書とスライドを用いて行う。

第1回：総論・疫学

第2回：人口統計

第3回：母子保健

第4回：感染症、食品と健康

第5回：地域保健、成人保健

第6回：産業保健

第7回：学校保健、健康と環境

第8回：国際保健、老人保健、災害医療

3. 教科書：保健生態学 第3版（医歯薬出版）

4. 評価の方法：単位試験

5. 授業時間数：30時間

6. 教員実務経験概要：歯科医師

7. 実務経験のある教員による授業の概要

私立病院において歯科診療業務に従事した実務経験を活かし、社会科学的な知識と技術を習得し、歯科保健医療の領域で公衆衛生の素養が身に付けられるよう指導している。

口腔衛生学

1. 目的

口腔衛生学は、口腔領域の疾患を予防することだけでなく、歯・口腔の形態と機能の保持・増進を図ることにより、全身の健康を維持することを目的とする学問である。個人の口腔保健指導・予防処置をはじめ地域口腔保健業務を担うための基礎知識を身につけ、応用する能力を培うことを本講義の目的とする。

2. 授業計画：講義（テキストの章とページ）

- | | |
|--|-----------------------------------|
| 1. 2. 総説（第1章p. 1-17） | 15. 16. 地域口腔保健活動（第7章p. 151-215） |
| 3. 4. 歯・口腔の不潔（p. 17-26） | 17. 18. 歯科疾患の疫学（第6章p. 124-132） |
| 5. 6. 口腔清掃（第2章p. 27-42） | 19. 20. 歯科の疫学指標（第6章p. 104-123） |
| 7. 8. う蝕の発生要因（第3章p. 43-46） | 21. 22. 実習説明 |
| 9. 10. う蝕活動性および予防方法 （第3章p. 46-54） | 23. 24. 実習（う蝕活動性試験） |
| 11. 12. フッ化物によるう蝕予防 （第3章p. 55-72） | 25. 26. 実習（口腔内診査・歯口清掃） 2班に分かれる |
| 13. 14. 歯周疾患、口臭・不正咬合の予防 （第4・5章p. 73-98） | 27. 28. 実習（口腔内診査・歯口清掃） 2班に分かれる |
| | 29. 30. 実習のまとめとテスト対策（復習） |

3. 持参物：

- ・歯科衛生士テキスト「口腔衛生学-口腔保健統計を含む-」第4版学建書院
- ・テキストにアンダーラインを引くためのマーカー（赤鉛筆、蛍光ペン）
- ・配布されたレジュメ（印刷物）

4. 評価の方法：単位試験、出席点、実習レポート

5. 授業時間数：60時間

6. 教員実務経験概要：歯科医師

7. 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院および歯科医院においてにおいて歯科診療業務に従事した実務経験を活かし、口腔保健指導・予防処置をはじめ地域口腔保健業務を担うための基礎知識を身に付け、応用する能力を培うことができるよう指導している。

文 学 論（国語表現を含む）

1. 目的

本講義では文章表現の基礎を学び、自分の考えをわかりやすく表現できる力を養う。日本語表現能力は、社会人になっても必要とされる能力である。様々な文章（レポート・手紙・報告書など）を書くための基礎を学ぶことで、「自分の考えが正確に伝わる文章」・「読む人が理解できる文章」を書く力を身につける。

2. 授業計画：講義

- 1 正確に伝わる言葉の使い方
- 2 文の組み立て・読み手を意識した文について
- 3 視覚的に見やすくする
- 4 論理的に構成された文章の書き方①
- 5 論理的に構成された文章の書き方②
- 6 レポートを書くための基礎
- 7 敬語について
- 8 まとめ・筆記試験

3. 教科書：適宜、プリント等を配布する。

4. 評価の方法：出席・課題・試験等で総合的に判断する。

生化学・口腔生化学

1. 目的（一般目標）

分子レベルで進歩する歯科医学を生涯にわたり自己研鑽し、歯科衛生士業務をとおして歯科医療に応用する姿勢を醸成するために、生命現象を連続した化学反応として捉える習慣（生化学的思考）とその習慣を生涯にわたり持ち続ける意欲を身につけるとともに、生命維持に必要な生体分子の代謝過程、口腔諸組織や唾液の成分と機能を理解する。

2. 授業計画：講義・演習

1. 生体における化学反応（教本p23～28）
2. 糖質と脂質の代謝（教本p29～37）
3. タンパク質とアミノ酸の代謝（教本p38～43）
生体における恒常性の維持（教本p44～47）
4. 歯と歯周組織の生化学（教本p50～64）
5. 硬組織の生化学（教本p65～80）
6. 唾液の生化学（教本p81～89）
7. プラークの生化学 1（教本p90～113）
8. プラークの生化学 2（教本p90～113）

3. 教科書：「人体の構造と機能2 栄養と代謝」 医歯薬出版

4. 評価の方法：科目試験（100点）で60点以上獲得したものを合格とする。

5. 授業時間：30時間

6. 教員実務経験概要：歯科医師

7. 実務経験のある教員による授業概要

大阪歯科大学附属病院および歯科医院において歯科診療業務に従事した実務経験を活かし、生命維持に必要な生体分子の代謝過程、口腔諸組織や唾液の成分と機能が理解できるよう指導している。

情報処理

1. 目的

コンピュータは現代社会において幅広く使われており、今や私たちにとっては欠くことのできない身近な道具となっている。本演習はコンピュータを使って日常生活でよく用いられる文書や説明用資料の作成能力を養い、併せてデータ活用能力も高めることを目的とする。

2. 授業計画

| 演習 | 演習内容 | 使用ソフト |
|-----|--|----------------------------|
| 1回目 | パソコンの基本操作・文書の作成 | Word |
| 2回目 | 基本的な作表・グラフ及び関数を使用した計算 | Excel |
| 3回目 | Word・Excelを使用した文書の作成 PowerPointの基礎・プレゼン資料作成 | Word / Excel PowerPoint |
| 4回目 | PowerPoint資料によるプレゼン | PowerPoint |

3. 教科書：医療従事者のための情報リテラシー 第2版 日経BP社

4. 評価の方法：(単位認定)

- ・出席時間が3分の2以上であること（毎時間出席をとる）。
- ・提出課題及び学習態度により評価を行う。

5. 教員実務経験概要：ファイナンシャルプランナー（CFP®）

6. その他

- ・毎演習時に提出課題（演習時間内に仕上げる）を求める。
- ・各自USBを持参すること。
- ・各自G-Mailアドレスを取得しておくこと。

以上

心理学（臨床心理学）

1. 目的

歯科医療の現場では、日々、様々な年齢や背景を持つ人（患者様）と出会う。また、仕事を円滑に進めるためには、歯科衛生士に加えて、歯科医師や受付事務といった多職種の人との協働が大切になってくる。本講義では、こころを理解するための基本的な枠組みをいくつか紹介することで①自分自身について②自分とは異なる他者とのコミュニケーションのあり方について考えて理解を深めることを目的とする。なお、適宜グループでの演習を行うことがある。

2. 授業計画：講義

- 1 基礎心理学1（感覚・知覚の心理学/学習・記憶の心理学）
- 2 基礎心理学2（認知・言語の心理学/感情・動機づけ・ストレスの心理学）
- 3 こころを計る（パーソナリティ・知能の心理学）
- 4 発達心理学の緒論（こころの発達）
- 5 ライフサイクルと心の危機
- 6 カウンセリング
- 7 コミュニケーションのあり方
- 8 まとめ

3. 教科書：なし 適宜、資料を配布する

4. 評価の方法：出席（参加態度を含む）と期末レポートから総合的に判断する

5. 授業時間数：15時間

6. 実務経験概要：心理判定員、スクールカウンセラー、臨床心理士

7. 実務経験のある教員による授業の概要

公立教育支援センターおよび私立看護助産師専門学校等においてカウンセリング、市町村においてスクールカウンセリング業務に従事した実務経験を活かし、自分自身について、自分とは異なる他者とのコミュニケーションのあり方について考え、理解を深めることができるよう指導している。

栄 養 学

1. 目的（一般目標）

健康を支える三つの柱が栄養、運動および休養であることを踏まえ、人々のwellnessに広く貢献する歯科衛生士としての職責を自覚し、また、生涯にわたりそれを実践するために、栄養素の機能、ライフステージに応じた栄養および食生活のあり方についての基本的知識を修得し、栄養状態を最新の科学的エビデンスに基づき評価する姿勢とともに、歯科領域からの改善のための指導計画を立案し、指導する能力を身につける。

2. 授業計画：講義

1. 栄養の基礎知識

- 1) 食生活と栄養（教本p116～119）
- 2) 栄養素の消化・吸収（教本p120～127）

2. 食事摂取基準

- 1) エネルギー必要量（教本p128～132）
- 2) 基礎代謝（教本p128～133）
- 3) 日本人の食事摂取基準（教本p133～139）

3. 栄養素の働き

- 1) 糖質の栄養的意味（教本p140～145）
- 2) タンパク質の栄養的意味（教本p145～152）
- 3) 脂質の栄養的意味（教本p152～156）
- 4) ビタミンの栄養的意味（教本p156～162）
- 5) ミネラル・水・食物繊維の栄養的意味（教本p162～175）

4. 食生活と健康

- 1) 国民の健康と栄養の現状（教本p178～183）
- 2) 望ましい食生活（教本p184～195）
- 3) ライフステージ別の栄養と調理（教本p195～202）

食べ物と健康

- 1) 食品の成分と分類（教本p203～210）

3. 教科書：「人体の構造と機能2 栄養と代謝」 医歯薬出版

4. 評価の方法：科目試験（100点）で60点以上獲得したものを合格とする。

歯科放射線学

1. 目的

現代の歯科医療においてエックス線写真検査の果たす役割は大きい。それだけに撮影装置の保守、管理ならびに写真処理機の整備、取り扱いについて十分な知識を有し、正しい操作のできることが不可欠である。

一方、患者からの放射線障害についての質問にも正しい応答が必要である。

したがって、例えエックス線の照射権のない歯科衛生士といえども放射線について知り過ぎるということはない。

2. 授業計画：

講義

1. 放射線総論
2. エックス線の発見とその性質
3. エックス線の発生と撮影装置
4. エックス線像形成の因子
5. 撮影用器材および写真処理
6. 口内法撮影
7. 口外法撮影
8. 放射線防護

実習

二等分法とパノラマの撮影および写真処理

二等分法とパノラマのスケッチ

3. 教科書：「歯科放射線学」 医歯薬出版株式会社

4. 評価の方法：単位試験、実習態度、スケッチ

5. 授業時間数：30時間

6. 教員実務経験概要：歯科医師

7. 実務経験のある教員による授業概要

歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、撮影装置の保守・管理ならびに写真処理機の整備・取り扱い等に関する知識が習得できるよう指導している。

歯周治療学

1. 目的

周知のように、歯周病学は歯科衛生士学生にとっては極めて重要で、将来の臨床との関わりも強い学科目である。歯科衛生士試験出題基準をみた場合、歯周病学と基礎科目や口腔衛生学、歯科臨床大要、歯科予防処置、歯科診療補助ならびに保健指導等との科目と極めて関連が深いことを示している。以上の事柄を勘案した場合、単に歯周病学領域に止まらず、関連性の高い他教科との併学を強調し、歯周病学の基礎と臨床ならびに将来の臨床実習を踏まえながら講義を進め、修得する意欲をもたせるように努める。

2. 授業計画：パワーポイント、黒板およびビデオでおこなう。

基礎

歯周組織の解剖・組織
歯周組織の生理
歯周組織の病理

臨床

歯周疾患の病因、病態
ペリオドンタルメディシン
歯周疾患の分類と臨床症状ならび対応
歯周疾患の診査と診断 歯周基本治療 歯周外科治療 薬物療法
メンテナンスとSPT

3. 教科書：「歯周病学」（医歯薬出版株式会社）

4. 評価方法：単位試験はマークシート方式でおこなう。

5. 授業時間：30時間

6. 教員実務経験概要：歯科医師

7. 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯周病学の基礎が習得できるよう指導している。

薬理学・歯科薬理学

1. 目的

薬物の性質・薬理作用・作用機序・副作用及び取り扱いを理解する。

近年、多種多様な薬物を服用している患者の受診機会が増加している。その薬物が歯科治療時にどのような効果・影響を与えるかを学ぶ。また、自身もしくは周囲の医療従事者の安全を確保するために、薬品の取り扱いを学ぶ。そして自身の日常生活においても生活の質を向上させることに役立つ力を身につける。

2. 授業計画：講義

- 1 総論1（薬物の作用・薬物動態）
- 2 総論2（薬物の適用方法の種類と特徴・薬物の作用に影響を与える要因・薬物の副作用、有害作用）
- 3 総論3（医薬品を適用する際の注意・薬物の取り扱い・薬物と法律・薬物と医薬品）
- 4 各論1（ビタミンとホルモン・末梢神経系に作用する薬物・中枢神経系に作用する薬物）
- 5 各論2（循環器系に作用する薬物・腎臓に作用する薬物・呼吸器系に作用する薬物）
- 6 各論3（消化器系に作用する薬物・血液に作用する薬物・免疫と薬・悪性腫瘍と薬・代謝性疾患治療薬）
- 7 各論4（炎症と薬・痛みと薬・局所麻酔薬・抗感染症薬・消毒に使用する薬）
- 8 各論5（う蝕予防薬・内療法薬・歯周疾患治療薬・顎口腔粘膜疾患と薬・漢方医学と薬物）

3. 教科書：「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」 医歯薬出版

4. 評価の方法：小テスト、講義修了後試験を行う、授業態度、出席状況から評価する

5. 授業時間：30時間

6. 教員実務経験概要：歯科医師

7. 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、薬理学の基本的知識とともに薬物の効力発現を理論的に理解し、各種疾病に対して薬物の適切な選択が出来る力を身に付けられるよう指導している。

病理学・口腔病理学

1. 概要

病理学では全身の病気と口腔領域の病気の本態を明らかにします。

病気とは正常な形態や機能を逸脱した状態であり、どのように発生するのか（発生機序）、どの部位によく発生するのか（好発）、患者にはどのような特徴があるのか（肉眼所見）、顕微鏡による観察でわかる特徴（組織所見）、そして病気の結果どのようなようになるのか（予後）について学んでいきます。

2. 授業計画：講義

- | | |
|---------------------|-------------------------------|
| 1. 病理学概論・病因論・先天異常 | 10. 歯髓の病変・根尖性歯周組織の病変 |
| 2. 循環障害・代謝障害 | 11. 歯周組織の病変・口腔の創傷治癒 |
| 3. 増殖と修復 | 12. 口腔粘膜の病変・エプーリス・ 口腔領域の奇形 |
| 4. 炎症 | 13. 顎骨の病変・口腔領域の嚢胞 |
| 5. 免疫と免疫異常 | 14. 歯原性腫瘍 |
| 6. 腫瘍 | 15. 非歯原性腫瘍 |
| 7. 歯の異常・機械的損傷・化学的損傷 | 16. 唾液腺の疾患 |
| 8. 象牙質・セメント質の増生 | |
| 9. 歯の沈着物と着色・齲蝕 | |

3. 教科書：新・歯科衛生士教育マニュアル 病理学 クインテッセンス出版 イラストでわかる歯科医学の基礎 永末書店

4. 評価方法：授業への参加度 小試験および本試験によって評価する

5. 授業時間数：30時間

6. 教員実務経験概要：歯科医師

7. 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院および歯科医院において歯科診療業務に従事した実務経験を活かし、全身・口腔領域の病気の本態を明らかにし、病気の結果どのようなようになるのかについて理解できるよう指導している。

保存修復学

1. 目的

保存修復学は、歯の硬組織に生じた部分的欠損や病変を修復し、解剖学的形態、機能的形態および審美性を回復する歯科医学における中心的であり、臨床の基礎となる学問である。さらには口腔の健康維持、予防医学や基礎科目とのつながりも強い。当講義では実習も交え、歯科衛生士にとって必要な保存修復学の知識・技能を習得することで臨床に結び付けることを目的とする。

2. 授業計画：講義

- 1 歯の保存療法とは
- 2 保存修復学の概要①
- 3 保存修復学の概要②
- 4 直接法修復①
- 5 直接法修復②
- 6 間接法修復
- 7 ホワイトニング等
- 8 実習

3. 教科書：「保存修復学・歯内療法学」 医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験で評価する。

5. 授業時間数：30時間

6. 教員実務経験概要：歯科医師

7. 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯科衛生士にとって必要な保存修復学の知識・技能を習得することにより、臨床に結び付けられるよう指導している。

歯内治療学

1. 目的

歯内治療学は、歯の硬組織、歯髄組織ならびに根尖周囲組織の疾患の予防法と治療法を考究する学問である。特に歯科臨床で最も苦痛を伴う“歯痛”を対照とする学問であるため、病状の把握と的確な診断と、これらに対する適切、かつ正確な治療法に対する専門的知識を習得することを目標とする。

《授業の内容》

教本に沿った内容で板書を中心に講義を行う。また、視覚的にも臨床をイメージできるように症例の画像（エックス線写真・静止画・動画など）を供覧する。

《他の科目との関係等学習上および履修上の注意点》

基礎系では口腔解剖学・口腔病理学・歯科薬理学と関連が多い。

また、臨床系では歯科保存学と密接に関係している。また、歯内療法終了（根管充填）後には補綴処置が行われることにも留意しなければならない。

2. 授業計画

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 歯の保存療法の種類と口腔検査 | 8 歯髄除去療法（抜髄法） |
| 2 歯内疾患の概要（歯内療法領域の主な疾患の概要と原因） | 9 根管治療の概念・術式 |
| 3 歯内疾患の概要（歯髄疾患・根尖性歯周疾患の分類と症状） | 10 根管治療の概念・術式 |
| 4 歯内疾患の概要（歯髄疾患・根尖性歯周疾患の処置） | 11 根管充填・根未完成歯の根管処置 |
| 5 前半のまとめ | 12 外科的歯内療法 |
| 6 歯髄保存療法（歯髄鎮痛消炎療法・覆髄法） | 13 歯の外傷・歯内療法における安全対策 |
| 7 歯髄除去療法（歯髄切断法） | 14 CBCT・マイクロスコープを使用した歯内療法 |
| | 15 歯内療法における歯科衛生士の役割・歯内療法使用薬剤と用途 |
| | 16 総まとめ |

以上1コマにつき90分授業を行う。

3. 教科書：「保存修復学・歯内療法学」（医歯薬出版）

参考文献：「わかる！使える！歯科衛生士のためのマイクロスコープ」デンタルダイヤモンド社

4. 評価方法：講義と筆記試験を行い、合否を判定する。

5. 時間数：30時間

6. 教員実務経験：歯科医師

7. 実務経験のある教員による授業の概要

大阪歯科大学附属病院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯の硬組織・歯髄組織ならびに根尖周囲組織の疾患の予防法と治療法に関する専門的知識が習得できるよう指導している。

隣接医学

1. 目的

歯・口腔領域は全身の一部であり、全身疾患の部分症状が口腔に現れたり、全身疾患が歯・口腔疾患に影響を及ぼすことがある。逆に歯周病のように口腔疾患が全身疾患に影響を及ぼすこともある。また高齢化社会を迎え、全身疾患を有する患者の歯科診療の機会が増大している。そこで、歯科医療、口腔ケアに関わる歯科衛生士も全身疾患の基礎知識を理解することは重要であり、特に歯科医療に関連の深い全身疾患を主体に学ぶ。

2. 授業計画：講義

- 1 糖尿病、脳血管障害、神経疾患、リウマチ・アレルギー性疾患、心身症
- 2 高血圧・心疾患、呼吸器疾患、消化管疾患、甲状腺疾患
- 3 感染症、血液疾患、腎疾患、肝疾患

3. 教科書

・資料配布

4. 評価方法：出席点・レポート点

5. 授業時間：15時間

6. 教員実務経験概要：医師

7. 実務経験のある教員による授業の概要

国立大学医学部附属病院および公立病院、大阪歯科大学において内科診療業務に従事した実務経験を活かし、歯科医療に関連の深い全身疾患を主体に学び理解できるよう指導している。

社会福祉論

1. 目的

今日、社会福祉制度は私たちの日常生活に不可欠なものとして定着し、多くの人々が活用している。そこで本講座では、社会福祉の理念、価値観、技術がどのようなものか、また、どのように歴史的に発展してきたのかを理解するとともに、社会福祉の主な個別の分野(子ども家庭福祉、高齢者福祉、障害者福祉、公的扶助と地域福祉)についても基本的な知識を深めることを学習の目的としている。

2. 授業計画：講義回数と内容

- ① 社会福祉とは何か(基礎概念と価値観、支援技術)
- ② 社会福祉をとりまく状況
- ③ 社会福祉の発展過程(社会福祉の歴史)
- ④ 社会福祉の法律と支援の仕組み(機関)
- ⑤ 子ども家庭福祉の現状と課題
- ⑥ 障害者福祉の現状と課題
- ⑦ 高齢者福祉の現状と課題
- ⑧ 公的扶助(生活保護を中心)と地域福祉の考え方

3. 教科書：教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

参考図書「よくわかる社会福祉」山縣文治、岡田忠克編著 ミネルヴァ書房

4. 評価の方法：授業態度(10%)、毎回の課題(40%)

単位試験(50%)

留意事項 毎回の課題の評価割合が高いため、丁寧に記載してください。

授業態度は、出席点ではありません。私語、授業中の居眠りなどをせず、授業に集中していることを言います。

栄養指導論

1. 目的

我が国における現代の健康と食生活に関する問題や課題と、歯科衛生士が必要とする栄養指導の知識と技法について栄養学を基に展開し具体的に学び、演習を通し理解を深める。

2. 授業計画：講義

- 1) 栄養学の復習・国民の健康と栄養の現状
資料：令和2年度国民健康・栄養調査他
課題：3日間の食事記録
 - 2) 望ましい食生活、食事計画、食品分類、食事バランスガイド
媒体：3日間の食事記録を使ってバランスチェック 1日の摂取する食品量
 - 3) ライフステージと食生活（乳児期、幼児期、学童期、思春期）
課題：幼児のための献立作成（1日分、栄養価計算を含む）
 - 4) ライフステージと食生活（成人期、妊娠・授乳期、高齢期）
媒体：料理カード
 - 5) 疾患の治療食、特定保健食品
媒体：栄養指導のための実例と使用媒体
 - 6) 高齢者を取り巻く問題と栄養指導
媒体：嚥下調整食分類2021 課題：フレイル予防のための献立
 - 7) 媒体作成
グループで作成
 - 8) 栄養指導の発表、まとめ
- ※国家試験問題に基づいた内容を講義する。

3. 教科書：医歯薬出版(株)「人体の構造と機能2 栄養と代謝」

東京法令出版株式会社「新食品成分表FOODS」2023
配布したプリントを使用

- ## 4. 評価の方法：歯科衛生士国家試験に準じたテストを行い、60点以上を合格とする。
- 授業の課題作成も採点に加える。

5. 授業時間数：30時間

6. 教員実務経験：管理栄養士

7. 実務経験のある教員による授業の概要

企業および専門学校において栄養指導業務に従事した実務経験を活かし、我が国における現代の健康と、食生活に関する問題・課題、歯科衛生士が必要とする栄養指導について栄養学を基に展開し、具体的に学ぶことによって知識が習得できるよう指導している。

歯科予防処置論 I

1. 目的

歯や口腔の疾患の予防のために、歯科医師や歯科衛生士などの専門家によって行われる処置を歯科予防処置という。人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために必要な専門知識、技術、および態度を習得する。

2. 授業計画

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 概要 | 13. 手用スケーラーについて |
| 2. 口腔の基礎知識 1 | 14. シックルタイプスケーラー（模型実習） |
| 3. 口腔の基礎知識 2 | 15. キュレットタイプスケーラー（模型実習） |
| 4. う蝕の基礎知識 | 16. シャープニング 1 |
| 5. 歯周病の基礎知識 | 17. シャープニング 2 |
| 6. 口腔内カメラ | 18. 歯面清掃・歯面研磨（講義・模型実習①） |
| 7. 口腔内の観察 1 | 19. 歯面清掃・歯面研磨（模型実習②） |
| 8. 口腔内の観察 2 | 20. 歯面清掃・歯面研磨（相互実習①） |
| 9. 歯・歯周組織の検査（講義・模型実習①） | 21. 歯面清掃・歯面研磨（相互実習②） |
| 10. 歯・歯周組織の検査（模型実習②） | 22. 歯面清掃・歯面研磨（相互実習③） |
| 11. 歯・歯周組織の検査（相互実習①） | 23. 単位試験 |
| 12. 歯・歯周組織の検査（相互実習②） | |

3. 教科書：歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版
歯周病学 第2版 医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験・実習評価・出席率・授業態度

5. 授業時間：90時間

6. 教員実務経験概要：歯科衛生士

7. 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院において歯科衛生士業務に従事した実務経験を活かし、歯・口腔の健康を維持・増進するために必要な専門知識・技術・態度が習得できるよう指導している。

8. 担当教員：専任教員

歯科診療補助論 I

1. 目的

日々の臨床において比重が大きい「診療の補助」を実践するため、原則的な行動のパターンを確立できるよう基礎的な知識と技術を習得する。

2. 授業計画：

- | | |
|--|--|
| 1. 総論・医療安全と感染予防 滅菌・消毒について 手指消毒法実習 ゴム手袋の取り扱い | 8. 成形歯冠修復材の取り扱い・隔壁法について |
| 2. 歯科材料と歯科診療の流れ・衛生材料の取り扱い | 9. 仮封材、歯肉排除用薬剤の取り扱い |
| 3. 印象用材料の取り扱い・模型用材料の取り扱い I | 10. 共同作業の基本・患者誘導について ポジショニング・診療用器械の知識と取扱い |
| 4. 印象用材料の取り扱い・歯科用ワックスの取り扱い | 11. フォーハンドシステム・バキュームテックの基本技法（講義・マネキン実習） |
| 5. 合着材および接着材の取り扱い I | 12. フォーハンドシステム・バキュームテックの基本技法（相互実習） |
| 6. 合着材および接着材の取り扱い II | 13. 印象材の取り扱い（アルジネート） |
| 7. 合着材および接着材の取り扱い III | 14. 印象材の取り扱い（マネキン・模型作製） |
| | 15. まとめ |

3. 教科書：歯科診療補助論 第2版 医歯薬出版
歯科材料 医歯薬出版
歯科機器 医歯薬出版
第3版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 永末書店

4. 評価の方法：単位試験・実習評価・出席率・授業態度・レポート

5. 授業時間数：60時間

6. 教員実務経験概要：歯科衛生士

7. 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院および病院において歯科衛生士業務に従事した実務経験を活かし、歯科診療補助を実践するために必要となる“原則的な行動パターン”を確立できるよう基礎的な知識・技術を指導している。

8. 担当教員：専任教員

歯科保健指導論 I

1. 目的

歯科保健指導とは個人や集団を対象として、生活習慣や態度を望ましい歯科保健行動に変容させることで、QOLの向上につながるように支援することである。

講義や実習及び演習から倫理的に裏付けられた科学的な実践過程を用い、対象者（患者や健康は人々）の要望や問題に応じた支援ができる能力を身につけることを目的とする。

2. 授業計画：

1. 歯科保健指導論概論
2. 口腔衛生管理 I
3. 口腔衛生管理実習①
4. 口腔衛生管理実習②
5. 口腔清掃状態の歯数
6. 口腔清掃状態の歯数
7. 口腔衛生評価実習①
8. 食生活指導の基礎
9. 生活習慣の指導
10. ライフステージ別保健指導（妊産婦・乳児期・幼児期）
11. ライフステージ別保健指導（学齢期・青年期）
12. ライフステージ別保健指導（成人期・老年期）
13. 配慮を要する者への歯科保健指導（要介護高齢者・障がい者）
14. 口腔健康管理 相互実習
15. まとめ・試験

3. 教科書：歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版 保健生態学 第3版 医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験・実習評価・出席率・授業態度・レポート

5. 授業時間数：60時間

6. 教員実務経験：歯科衛生士

7. 実務経験のある教員による授業の概要

歯科医院および保健センターにおいて歯科衛生士業務に従事した実務経験を活かし、歯科保健指導に必要な“対象者の要望や問題に応じた支援ができる能力”を身につけられるよう科学的な実践過程を用いて指導している。

8. 担当教員：専任教員

一般社団法人 大阪府歯科医師会附属歯科衛生士専門学校

講義概要

平成10年4月 初版
平成12年4月 改訂
平成14年4月 改訂
平成16年4月 改訂
平成18年4月 改訂
平成19年4月 改訂
平成21年4月 改訂
平成22年4月 改訂
平成23年4月 改訂
平成24年4月 改訂
平成25年4月 改訂
平成26年4月 改訂
平成27年4月 改訂
平成28年4月 改訂
平成29年4月 改訂
平成30年4月 改訂
平成31年4月 改訂
令和2年4月 改訂
令和3年4月 改訂
令和4年4月 改訂
令和5年4月 改訂

発行者 一般社団法人 大阪府歯科医師会
附属歯科衛生士専門学校
大阪市天王寺区堂ヶ芝1丁目3番27号